

阪急百貨店、阪神百貨店、大丸がひしめき、合計売り場面積で東京・新宿を上回る日本一のデパート激戦区である梅田のど真ん中 JR 大阪駅ビルに、2011 年春、老舗の三越と東京一の伊勢丹がタッグを組み鳴り物入りで「JR 大阪三越伊勢丹」はオープンした。すでに JR 京都伊勢丹成功の実績もあり、「大阪から日本を元気にしたい」と自信満々のスタートを切った。

が、開店当初から苦戦を強いられ、ライバルの阪急百貨店に至っては改装中であったにもかかわらず、売り上げは伸び悩み、年間 550 億円の当初売り上げ目標に対し 300 億円台にとどまり債務超過に陥ったあげく、ついに先月末、売り場面積の縮小を発表。三越伊勢丹の看板を下ろすことも検討中というから事実上の敗北宣言である。

で、大阪勢は勝ったのか。実は逆である。来月には大阪市南部の阿倍野に、高さ日本一を誇る高層ビル、売り場面積日本一の「あべのハルカス近鉄本店」がついにオープンする。しかしこれは誰が見ても明らかに需要を遥かに超える供給過多である。何せ日本屈指の優良店ヤマダ電機でさえ初の赤字転落というモノの売れないこのご時勢だ。一体この先どうなるのか。共倒れになりはしないか。バブル時代と大差ない、拡大路線をひた走る小売業界を見て、

「それゆえ、私は彼らの妻を他人に与え、彼らの畑を侵略者に与える。なぜなら、身分の低い者から高い者まで、みな利得をむさぼり、預言者から祭司に至るまで、みな偽りを行なっているからだ。」エレミヤ書 8 章 10 節

と、滅亡前夜のイスラエルに向かって神が怒りを発した 2600 年前の聖書の一節を思い出した。“むさぼり”とは「飽きることなく欲しがり、際限なくある行為を続ける」ことである。かつての戦争、バブル、原発など、全てむさぼりの結果ではなかったか。共倒れになる前に、日本人がキリストを信じ、罪を悔い改めることを祈るばかりである。



- ①グランフロント大阪南館 ② J R大阪三越伊勢丹 ③阪急百貨店梅田本店
④大丸梅田店 ⑤阪神百貨店梅田本店

